

## 巻頭言



# 「名村テクニカルレビュー」 第20号発刊に際して

代表取締役会長 名村 建彦

名村テクニカルレビュー創刊号（1998年出版）の巻頭言を「継続は力なり」で締めくくり、19年ぶりの再執筆となる。

わが国でITへの関心が急速に高まった1989年、総合重工7社は共同で、造船CIMS（Computer Integrated Manufacturing System）開発5カ年計画をスタートさせた。

ITを駆使した生産技術で專業造船所との差別化を図ろうとする動きに対抗して、弊社は将来的には独自のCIMS構築を視野に入れ、まずは全社的なITシステム化に挑むために「WIN21プロジェクト」の活動を開始、1990年10月に「WIN21本部」を設立した。

「WIN21」は「21世紀を勝つ」を意味しているだけではない。

“We Innovate Namura of the 21st Century”

「名村を革新して21世紀の勝ち組となろう」との意気込みである。

弊社は專業造船所の中で高い技術力を評価されていたが、1973年の第一次石油危機を契機とする造船不況の長期化により、大阪工場の売却と雇用調整、伊万里事業所の操業量不足による人員合理化を余儀なくされ、多くの人材を失った。また、大阪工場は中小型船を得意としていたので、伊万里工場に相応しい大型船建造技術を確立しなければならないが、大型船を主力商品とする総合重工の協力を期待することは出来なかった。

独力で技術開発に挑み、全員の目線を一段上げた業務改善意識によって事業基盤の強化を図る。「(総合重工企業しか出していない) 技報を出そう！」と決め、編集事務局はWIN21とした。研究論文だけでなく、設計部門、生産現場や管理部門の改善提案、保証技師の乗船日記、商品説明、何でも歓迎、全ての事業部・関係会社、誰にでも書いてもらう全員参加の「技報」を作ろうと。

本誌が年々向上していることに驚いているし、毎年開催している社内研究開発発表会のレベルが高くなっていることにも感心しており、設計部門のみならず製造部門などの発表が見られることを喜んでいる。

グループ会社全員の技報や発表会としてこれからも続いてほしい。

「性格の弱さを悲しむなかれ、性格の強さ必ずしも誇るに足らず、念願は人格を決定す、『継続は力なり』真の強さは正しい念願を貫くことにある」(宗教家 住岡夜晃)